

かがやく

— あなたも、わたしも —



特集
1

父親が変われば、この社会も変わる。

特集
2

ワーク・ライフ・バランスは無理!?

連載

かがやく個性たち

*「おやじ&おふくろの会」は、いつ頃どのように結成されたのですか？

会の基礎になる「おやじの会」は平成元年4月に発足しました。結成前後の昭和60年代は、全国あちこちの中学校で校内暴力事件が起こり解決策に悩んでいた時代でした。湖北台中学校（以下台中という）のPTA会長をしていたちょうどその頃、新聞記事で調布市内のある中学校で「おやじの会」を立ち上げこの問題に取り組んでいることを知り、校長先生の協力を得て「おやじの会」が誕生しました。

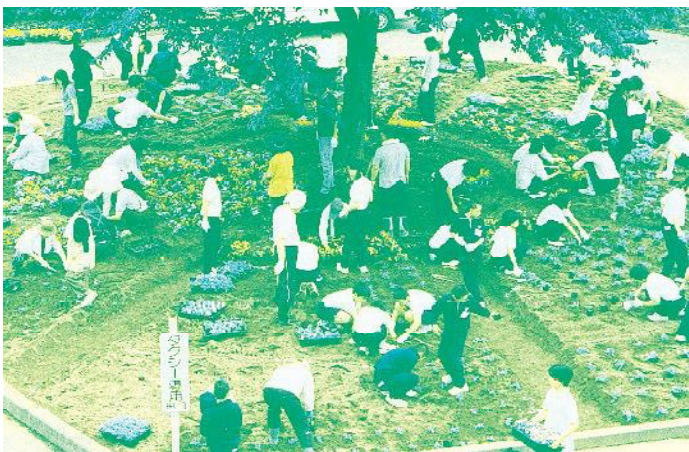
「父親の学校への関わりの重要性」に賛同して100人近いおやじ達が集まりました。月1回土曜日の夜、主にインディアカなどのスポーツで汗を流し、缶ビール1つで校長先生、教頭先生を囲み、話し合いの機会を作りました。会社人間から地域活動へのきっかけづくりにもなりました。

その後、「おふくろ」も仲間に入れてほしいと母親たちの申し出で「おやじ&おふくろの会」に改称し現在に至っています。今年で22年になります。

*どんな活動をしているのですか？

ゴミ拾い

毎月第2土曜日の夜はスポーツを、翌日曜日は、湖北駅前～樺通り～台中まで空き缶やゴミを拾い焼却炉で燃やすクリーン作戦を行ってきました。ところが、ダイオキシンの問題が取り上げられ台中の焼却炉が使えなくなりクリーン作戦は中止せざるをえなくなりました。また、毎年3月には、台中生と街路樹の柵に芝桜を植えていました。



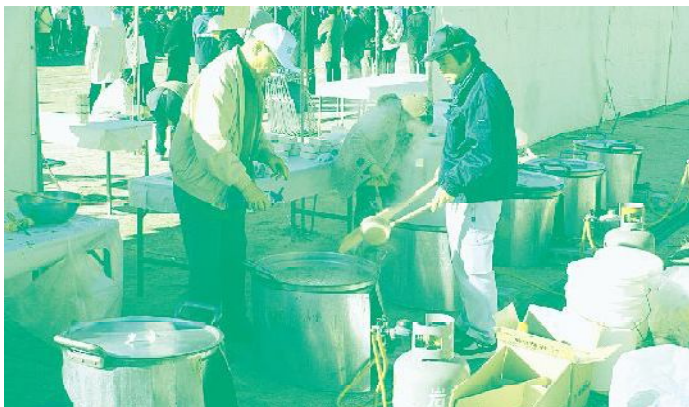
花壇

そのうち湖北駅前ロータリーに花壇を作りたいという意見が出て、我孫子市に「ロータリーの花壇化」を申請し受理され、道路課による土壌改良や花苗の提供があり実現しました。その後は「台中生による花壇設計コンクール」を開催し、年2回、台中生と一緒に花壇造りを楽しんでいます。今も「ふるさと・街づくり」参加の伝統が台中に根付いています。

けんちんうどん・豚汁・すいとん

台中PTAのバザーへの出店を頼まれ、手打ちの「けんちんうどん」を作りました。決め手は前日に捏ね、一晚寝かせることで、全員の意気込みが伝わり「旨い!」と好評でした。以来「けんちんうどん」は恒例となりました。

また、新春マラソン大会実行委員から、「豚汁」を頼まれ、4年前から「すいとん」も加えた大鍋6個でおやじ&おふくろの共同作業で楽しんでいます。温かい豚汁やすいとんは毎回750食が完売する好評さです。



*長く活動が続いている秘訣や、うれしかったことは？

「けんちんうどん」や「豚汁・すいとん」の収益が、会の運営資金です。花壇造りの経費や、「台中生による花壇設計コンクール」の賞状や賞品（図書券）に充当します。会費なし。作業に汗して、楽しく語り合うのが、続いている秘訣でしょうか。

花壇造りには引率の先生と台中生50名位、PTAの父母も一緒に参加して、楽しく賑やかに作業をします。美しく彩られた花壇は、子どもや地域の人の心を和ませていると思います。子ども達から元気に挨拶されるのが一番うれしいですね。

*「おやじ&おふくろの会」の将来は？

現在会員は15名前後です。50代から70歳ホヤホヤまでです。PTA役員を終えて入会される方もあり、若返りを期待しています。台中生との共同作業も伝統になっていますから、永久に会が続いていくと明るい希望を持っています。

私たちの会は、地域の子どもの健全な育成に役立ちたいと活動し、子ども達から沢山の元気を貰っています。これからもみんなで力を合わせて楽しく地域活動を続けたいと思っています。

編集後記

ワーク・ライフ・バランスってシーソーの両端で「ワーク」と「ライフ」が上下しているのをイメージしてしまいましたが、そのような二項対立的発想はちょっと違うと思う。「ワーク」は大きな「ライフ」のなかのひとつのパートにすぎない、もっとも「ワーク」がなければ「ライフ」も成立しませんが。（元ハードワーカー）